

- 9) Barrett, E. et al.: J. Clin. Invest., **26**; 857, 1947.
- 10) Shannon, J. A.: J. Clin. Invest., **14**; 403, 1935.
- 11) Crawford, B.: J. Clin. Invest., **27**; 171, 1948.
- 12) Doolan, P. D. et al.: Am. J. Med., **32**; 65, 1962.
- 13) Chesley, L. C. et al.: J. Clin. Invest., **19**; 475, 1940.
- 14) Hare, R. S.: Proc. Soc. Exp. Biol. & Med., **74**; 148, 1950.
- 15) 浦壁重治他: 臨床検査, **9**; 886, 1965,
- 16) Shanron, J. A.: J. Cell. and Comp. Physiol. **11**; 123, 1938.
- 17) Steinitz, K. et al.: J. Clin. Invest., **19**; 285, 1940.
- 18) Mandel, E. E. et al.: J. Lab. & Clin. Med., **42**; 621, 1953.
- 19) Brod, J. et al.: J. Clin. Invest., **27**; 645, 1948.
- 20) Haugen, H. N. et al.: Scand. J. Clin. & Lab. Invest, **5**; 67, 1953.
- 21) Gilman, A. et al.: Am. J. Physiol., **146**; 348, 1946.
- 22) Pitts, R. F. et al.: Proc. Soc. Exp. Biol. & Med. **64**; 224, 1947.
- 23) Newman, E. V. et al.: Bull. Johns Hopk. Hosp., **79**; 229, 1946.
- 24) Lambiotte, C. et al.: J. Clin. Invest., **29**; 1207, 1950.
- 25) Bucht, H. et al.: Scand. J. Clin. & Lab. Invest., **1**; 270, 1949.
- 26) 藤本守他: 日腎誌, **2**; 347, 1960.

— □ 書 評 □ —

Ashton Miller

N. Slade 著

H. M. Leather

A Synopsis of Renal Diseases and Urology

慶応義塾大学医学部助教授・東福寺英之

本書は英国 Bristol 市 John Wright and Sons 社が Synopsis の Series として出版している一連出版の一部として発行されたものである。

Ashton Miller は Royal College of Surgeons の Fellow で United Bristol Hospital および S. W. Regional Hospital Board の Consultant Urologist であり, N. Slade も同様 R. C. S. の Fellow で Southmead Hospital Group の Consultant Urologist である。H. M. Leather は Royal College of Physicians の Member で Plymouth Clinical Area の Consultant Physician である。以上 2 人の泌尿器科医と 1 人の内科医によつて書かれた本書はその緒言でも述べられているように腎疾患では内科医と泌尿器科医の興味をひく部分が互に重複してなかなか明確に分別することができない。したがつて従来泌尿器科の書に比べて多数の頁数を内科的疾患に当てているのが目立っている。253 頁の本書は 27 章に別れている。

第 1 章では尿路の構造と機能とその応用と題し構造上の異常と機能障

害の関連、さらに婦人科、外科的手術時の注意から放射線照射の影響におよんでいる。さらに腎の hemodynamics から糸球体、尿細管に各部の機能から Erythropoiesis まで、また尿の運搬系路が詳述されている。

第 2 章は臨床検査法に当て、各臓器の触診から外科的到達法をこの次に入れている。

第 3 章は正常、異常尿所見に、第 4 章の多尿では主として ADH 抗利尿ホルモンをとりあげている。

第 5 章の急性腎不全、第 6 章に慢性腎不全をあげ病態生理はもちろん治療法に力を注いでいる。

第 7 章の代謝性疾患における腎から第 12 章まで主として内科的腎疾患である尿細管機能不全糸球体腎炎から腎アミロイドーデス、腎静脈血栓、ミエロマトーシスに至っている。しかしこれらの間に尿管腸吻合術後の管理をとりあげている。

第 13 章に至つて非特異性上部尿路感染症である腎盂腎炎が取りあげられ次いで下部尿路、第 15 章に結核および寄生虫による疾患が記述されている。

第 16 章以下はさらに尿路結石、上下部尿路通過障害、腎性高血圧、妊娠と腎、尿路に対する放射線の影響、外傷、奇形、腫瘍と別章にしているところ従来泌尿器科書の様相を示している。次いで男子外性器疾患として前述の項目に分類されない疾患を集め最後の章に尿路の神経因性疾患がとくにその治療が詳述されている。

本書は尿路の泌尿器科的疾患および内科的疾患を取扱う場合に手軽なポケットブックであり、また英国流の考え方を知らるために興味ある本といえよう。全般的に病態生理よりも治療に重点を置いている点本邦に見られる各種の Synopsis と若干異なり各所に見られる薬剤名、手術術式が冠名である点、時折混乱を招くであろう。

上級医学生、インターン生、入局早々の医師に有用な一書といえ一読を推奨したい。

John Wright and Sons Ltd.,
Bristol, Great Britain, 1966 年

A5 判 頁 284 2 図 ￥ 2,100

医学書院洋書部扱